

社会福祉法人 豊徳会

令和 5 年度 事業報告

はじめに

令和 5 年度は、引き続き、新型コロナウイルス感染症の影響を大きく受けた一年であった。集団感染(クラスター)が複数回発生し、その対応を行ったが、高齢の利用者や入居者にとって、感染隔離等により日常生活が普段通りに行えないことの影響は大きく、心身共にダメージが大きかった。また、職員にとっても、職場だけでなく自身の生活での感染に対する不安や、職員の感染による勤務変更などのストレスの中、お互いに協力し合いながら、コロナ感染症に対応することが出来た。一方、集団感染発生時には、ショートステイやデイサービスの受入を停止した為、地域の利用者にご迷惑をお掛けした。

美祢市立美東病院と話し合いを重ね、緊密な連携を図る為、定期的な医師の往診を含む契約を 9 月に締結した。医師の定期的な往診により、美東病院への受診の負担が入所者・職員共に軽減されると共に、美東病院による入所者の健康状態の把握がより進み、緊急時のスムーズな受診に結びついた。また、「看取り」では、最期の時を園で迎えたのちに、消防署との連携のもと、美東病院で医師による死亡確認を行った事例が複数あり、最後まで園で過ごしたいという本人・ご家族の望みをかなえることが出来た。さらに、この連携は、令和 6 年 4 月に、「美東病院との協力医療機関」協定の円滑な締結に繋がった。

地域の高齢化、少子化、過疎化はますます顕著になり、経営に大きな影響を与えている。特に特養青景園における入居者の減少と、職員の高齢化の影響は大きく、事業運営方法を時代環境に合わせたものへの展開を図る為、勤務体制の変更(夜間勤務帯など)や効率的な空間利用などに着手した。また、展示会見学や園内でのデモ体験など、ICT活用に向けての取り組みを始めている。

一方、老人福祉施設相互研修会では、実践に即した「看取り」経験を発表し、山口県で選抜され、中国地区大会に臨み、好評を得た。このことは、自分たちの日頃の業務の成果でもあり、あらためて日頃の業務に自信を持つことが出来た。

《総務部門》

1. 収支悪化の改善

- ・ 物価、光熱費の高騰が続いており、運用経費が増大している。山口県の物価高騰対策補助金を活用したが、対象は光熱費と食材料費のみに限られており、増大した経費全てを補うものではないため、対策に苦慮している
- ・ 新型コロナウイルス感染症のクラスターが令和 5 年度中に 3 回発生。それに伴い併設

のデイサービスセンターの休業、ショートステイの受け入れ縮小も行い、収入が減少した。山口県の介護サービス継続支援事業補助金により、コロナ感染対応に対する経費の補助を受ける事は出来たが、同補助金は令和5年度で終了。今後も感染症の発生は起こりうるため、事前の準備、対応策を用意しておく必要がある

- ・ 減少した利用者数に合わせた人員配置の調整を行い、人件費の削減を図っている。その中でも質の高いサービス提供継続のためには、新しい介護機器、ロボットの導入は必要不可欠であり、介護職員と共に介護機器の展示会へ出張し、その後も実機のデモ、試用を行いながら、機器やシステムの選定を行っている

2. 業務の省力化、継続性の強化

- ・ 総務業務内容の見直し、簡素化を行い、業務マニュアルを作成中であり、不測の事態が発生した場合でも、業務を継続していけるように、業務の均一化を行っている。山口県の介護 ICT 導入補助金を利用して、給与計算システムを更新した
- ・ 介護施設における業務継続計画(BCP)を策定し、自然災害や感染症への備えをおこなった。今後も適宜見直しを行いながら、より実用的な計画にしていく

・・・ 資料 ……

《会議について》

◎ 理事会

第1回理事会 (日時:令和5年6月1日、場所:別府公民館)

- 議題:
- ・令和4年度事業報告
 - ・令和4年度会計報告
 - ・令和4年度第1回評議員会招集
 - ・任期満了に伴う次期理事監事候補者の推薦

第2回理事会 (日時:令和5年6月19日、場所:青景園)

- 議題:
- ・理事長の選任
 - ・理事長の報酬額の決定

第3回理事会 (日時:令和5年11月21日、場所:別府公民館)

- 議題:
- ・令和5年度上期事業報告
 - ・令和5年度上期会計報告
 - ・令和5年度第1回補正予算

第4回理事会 (日時:令和6年3月29日、場所:秋芳の里)

- 議題:
- ・令和5年度補正予算
 - ・令和6年度事業計画
 - ・令和6年度予算

◎ 評議員会

第1回評議員会 (日時:令和5年6月19日、場所:別府公民館)

- 議題:
- ・令和4年度事業報告
 - ・令和4年度会計報告について
 - ・任期満了に伴う新理事・監事の選任

第2回評議員会 (日時:令和5年11月21日、場所:秋芳の里)

- 議題:
- ・令和5年度上期事業報告
 - ・令和5年度上期会計報告
 - ・令和5年度第1回補正予算

◎ 運営協議会

第1回運営協議会 (日時:令和5年7月3日、場所:嘉万公民館)

- 議題:
- ・令和4年度事業報告
 - ・地域への公益的な取り組み等による意見や要望

第2回評議員会 (日時:令和5年12月14日、場所:嘉万公民館)

- 議題:
- ・令和5年度上期事業報告
 - ・地域への公益的な取り組み等による意見や要望

◎ 令和5年度福祉サービス苦情解決規定に基づく第三者委員の会議

(日時:令和5年10月23日、場所:秋芳の里)

- 議題:
- ・苦情発生状況について(令和4年10月～令和5年9月)
 - ・入居者の生活状況等の報告について

※ 社会福祉法人豊徳会 福祉サービス苦情解決規定

第1条(目的) 社会福祉法第82条等に基づき、社会福祉法人豊徳会が苦情解決に関する必要な事項を定め、各事業所のサービスに関する利用者(以下「利用者」という。)等から苦情の適切な解決に資するとともに、福祉サービスの質の向上を図る目的とする。

《美祢市受託事業》

◎ 配食サービス事業

配達地域： 秋芳町 全域
 配達日： 月、水、金曜日
 利用者数： 45名 (R4:37人、R3:40人、R2:35人)
 年間配食数： 3272食 (R4:3199食、R3:2996食、R2:2554食)

◎ 美祢市家族介護教室開催事業

R2,R3,R4年度は、すべて中止

月日	場所	参加人数
令和5年 6月13日	秋芳町別府檜皮公会堂	8名
7月26日	秋芳町嘉万半田公会堂	10名
8月4日	美祢社協・秋芳地域福祉センター	12名
10月17日	美東町真長田定住センター	3名
10月31日	美東町綾木ふる里センター	7名
11月14日	美東町赤郷交流センター	0名

《防災・防犯関係》

青景園

・非常通報訓練(夜間想定) 令和5年6月13日
 ・避難訓練(土砂災害想定) 令和5年7月2日
 ・避難訓練(夜間火災想定) 令和5年3月28日
 ・消防設備等定期点検 令和5年6月16日
 ・消防設備等定期点検 令和6年2月21日

秋芳の里

・夜間想定非常通報訓練 令和5年6月15日
 ・夜間火災想定避難訓練・消火訓練 令和5年11月30日
 ・消防設備等定期点検 令和5年6月16日
 ・消防設備等定期点検 令和6年2月21日

《職員について》

① 職員の状況（各年度の4月給与の支給対象者より算出）

年度	人数 (人)			年齢 (歳)			社歴 (年)		
	R03	R04	R05	R03	R04	R05	R03	R04	R05
正社員	74	75	72	50.3	51.0	52.8	14.7	15.0	16.3
パート	76	74	65	66.6	64.3	63.1	17.7	12.7	11.8
嘱託職員	9	9	8	69.3	70.3	71.8	8.2	9.1	8.4
計	159	158	145	59.2	58.3	58.4	15.8	13.6	13.9

↓ 差△ 13
 ↓ 差 + 0.1
 ↓ 差 + 0.3

② 退職者 及び 入職者

- ・入職者
 - 正社員 0人
 - パート・嘱託 5人
(50代2人、60代2人、70代1人)
 - 合計 5人

- ・退職者
 - 正社員 3人
(20代1人、30代1人、70代1人)
 - パート・嘱託 17人
(10代1人、60代3人、70代11人、80代2人)
 - 合計 20人

- ・身分異動
 - パート・嘱託 → 正社員 無し
 - 正社員 → パート・嘱託 無し

《資格取得》

介護福祉士資格試験 合格者 1名

《職員研修》

i 園内研修

- ・ 職員全体研修会 • 5月 感染症 DVD 視聴
- ・ • 8月 回覧研修(安全運転、虐待・拘束)
- 11月 感染症、虐待・拘束、大会発表
- 3月 回覧研修(認知症、感染症、事故防止等)
- ・ 個別技術研修認定 なし

ii 園外研修

- ◎ 延べ派遣数 57名
 (R1:128名、R2:16名、R3:22名、R4:41名)
- ・うち 海外研修 なし (R1:2名、R2、3、4:0名)
- ・うち 県外派遣数 12名 (R1:12名、R2、3、4年度0名)
 岡山市:中国地区老人福祉施設研修大会
 福岡市:CareTEX 福岡¹23
 広島市:経営協青年会全国大会
- ◎ オンライン研修(再掲) 12名 (R3:61名、R4:41名)

《あおかげ勉強会 2023》 【人生の終わりの時期の支援をすることの意義を考える】

テーマ: ~自分に「尊厳」を感じること、他者に尊厳を感じること~

講師: 廣田 智子

山口県立大学社会福祉学部准教授、文学博士

研究分野 - 福祉哲学

日時: 第一回 8月30日(水)

~ 時代の課題:自分に「尊厳」を感じる、他者に尊厳を感じる? ~

第二回 9月27日(水)

~ どうして私が他人からの「迷惑」を受けとめなければならないの? ~

第三回 10月25日(水)

~ 高齢者の尊重と生産性優先との矛盾 ~

第四回 11月22日(水)

~ 組織の統治の倫理と構成員の幸福感 ~

【新型コロナウイルス感染症関連】 … 各部署の関連記述を参照ください

各部署の関連記述を参照ください

特別養護老人ホーム青景園

令和5年度 事業報告

地域の人口減少に伴い入居も円滑に進まない状況から、入居者数を減らさざるを得なくなった。このため、特に介護の現場では、職員体制や業務内容の見直し等、幾度も検討を行ってきた。こうした中で、入居者の方には、ご自分の存在や思いが充分尊重して頂けるよう寄り添い、また職員においては、働きがいのある職場になるように努めた。

今後においても、安定した経営のもと、入居者の方や職員が安心して施設での生活が営まれるよう、課題に向かって取り組んでいく。

・・・ 重点項目 ……

1. 看とり

- ・ 園で最期を迎えられた方は4名であった。その内1名の方は急変をされた方だったが、3名の方は、最期まで園で過ごしたいとのご本人や家族の思いに寄り添い、看とりの時間を過ごされた。コロナ禍ではあったが、時間を決め毎日面会に来られたご家族もあった
- ・ ご家族は様々な事情をお持ちで、最期の瞬間に立ち会われないことを承知されていても、私たち職員は、「これでいいのか?」「何か出来ないか?」と繰り返し葛藤しながら時を過ごすこともある。それ故に、看取り期に限らず、日々の生活の中で、家族の代わりになって、その方と真摯に向き合い、お互いに悔いることのない時間を過ごしたいと思っている

2. 認知症ケア

- ・ R3年度に資格を有さない介護職員の認知症基礎研修の受講が必須になったことを受け、まだ受講していなかった23名が今年度受講し、対象となった職員全員が受講を終了した
- ・ 今後は認知症の実践研修へ積極的に参加しながら知識を高め、職員各自のレベルアップにつなげていく

3. 職員の資質向上

- ・ 介護福祉士の国家資格を1名が取得した

4. 安全衛生

- ・ 腰痛予防・業務の省力化や効率化を取り入れていくため、施設内でのICT説明会も

開いた。また、機器のデモンストレーションも繰り返し行い、評価も踏まえて、今後も実践の場で積極的に取り入れていけるよう努めていく

- ・ 次年度では委員会を設け、取り組みを現実化していく

5. 感染症予防対策(新型コロナウイルス感染症)

- ・ 年度初めの 4 月に施設内でのクラスターが発生し、宇部健康福祉センターより派遣された医師・看護師の指導を受け、感染対策を行った。専門的な視点で根拠に基づいた指導で、効果的な対応を行うことが出来た。その後、1月に再び感染があったが、この時は少数の入居者の感染で終息した

☞ 参照 《生活相談部門 P10》《介護部門 P15》《看護部門 P17》

- ・ 高齢者の方にとって、感染は重症化しやすく、感染をきっかけに入院し退院が出来ない方もあった
- ・ 感染が拡大すると、入居者の生活スペースは閉ざされ、コミュニケーションも満足に出来ない日々が続き、心身の機能低下となる為、影響が大きい。同時に、職員の心労も増し、モチベーションを失うことなく業務を行ってもらう為の工夫や努力も必要であった
- ・ 5 類へ移行後も、サービスを利用される方や、職員の健康チェック等感染対策は継続して行っている
- ・ 感染者発症時の初動対応等、定期的に実践を通じた訓練を行い、感染対応についての疑問や不明確な点を確認しながら、職員各自に徹底させていく事が今後の課題である

6. パンデミック以前の普通の生活への復帰

- ・ 予約制による直接対面しての面会、短時間の外出(飲食を伴わない)やボランティア(生け花、傾聴、屋外での作業)の受け入れ等は、感染対応に配慮しながら実施出来た
- ・ ご家族の施設の居住スペースへの立ち入りや誕生会などの行事への参加、地域の行事への参加やふれあい等は、まだパンデミック以前の状態には戻っていない
 - ※敬老会には、少数の節目の歳を迎えられた家族の方に参加してもらった
- ・ 今後は、少しずつ、これまでの生活に早く戻れるように前向きに検討しているが、令和6年度当初にも、集団発生し、なかなか元に戻せないのが実情である

<介護報酬に関する資料>

表1. 利用者の状況

① 利用者数

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
延べ利用者数 [人]	26,981	24,945	21,812
利用率 [%]	92.40%	85.43%	74.49%
一日平均利用者数 [人]	73.9	68.3	59.6

- ・ 利用者定員 80 名であるが、実質的には在籍 60 名程度となった為、利用者人数は減少した

② 入院者数

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
延べ入院者数 [人]	1,422	1,796	1,988
利用率 [%]	4.87%	6.20%	6.79%
日平均入院者数 [人]	3.9	4.9	5.4

- ・ 入院の長期化が顕著になり、長期入院(3 ヶ月間)を待って退院できず退所となられた方が多くなった。結果、入院者数は増加した
- ・ 年間退所者の半数は長期入院の為、退所された方である

③ 欠員者数

	R3 年度	R4 年度	R5 年度
延べ欠員者数 [人]	797	2,459	5,480
利用率 [%]	2.73%	8.40%	18.72%
日平均欠員者数 [人]	2.2	6.7	15.0

- ・ 定員 80 名であるが、退所される方も多く、また、その次の入所がスムーズに出来ず、欠員者数は増加につながっている

表2. 介護報酬(月次レセプト請求額の集計)の状況

		R3 年度	R4 年度	R5 年度
人数		26,975	24,911	21,778
介護報酬	基本報酬の部分	204,753,000	189,127,620	165,617,650
	加算の部分	21,118,640	19,202,590	15,467,420
	処遇改善加算の部分	24,846,750	24,538,460	22,816,510
	合計	250,718,390	232,868,670	203,901,580

- ・ 介護報酬の減収は、利用者数の減少の為である

《 生活相談部門 》

入居者・家族に寄り添い、「ここで生活したい」「ここで生活できてよかった」と、利用者、家族が安心して、満足のできる暮らしとなるように、多職種と連携して関わっている。コロナ禍で、施設入所を躊躇する方が多いが、安定的、永続的にサービスを提供するために、入所が円滑にできるように、家族とのふれあいの時間がもてるように工夫した。

家族と密に連絡をとりあい、人生の最期、寿命を全うすることができるように関わった。

・・・ 重点項目 ・・・

1. 入居者・家族との関わりについて

- ・ コロナ禍ではあるが、家族との関わり、会えるような工夫をし、本人、家族が安心した生活が過ごせるようにした
- ・ 4月と1月にはコロナクラスターとなり、入居者、職員ともに大変な状況となり、家族にも心配をおかけした。面会が再開し、元気な様子を報告したり、可能な方は外出もすすめて、家族との大切な時間を過ごしてもらえるようにした。コロナ感染症の心配は常にあり、面会や外出後の手洗いや消毒、また換気にも気を付けるようにした
- ・ 看取りについては、いつでも相談できるような細やかな対応をし、状況をわかりやすく説明するようにした。その人らしく、家族と共に最期を迎えることができるように、入居者や家族の揺れる思いを聞き、寄り添う。また本人・家族が安心して過ごすことができるように環境面の配慮も行った。しかし、園での看取りは少なく、長期入院が増えた。長期入院者は、体調が整わず、退所後、死亡されたケースが多かった
- ・ 楽しみのひとつである食事を、美味しく、楽しく味わうことができるように、本人の好みを知り、時にはリクエストを聞いた
- ・ 急変時の報告だけでなく、生活の中で良い事、うれしいこと、できるようになった事なども家族に報告するようにした

2. 職員間の連携

- ・ コロナ禍であり、集まる機会が少ないが、部署内ではもちろんのこと、少人数で多職種と話し合う機会を作り、連携を深め合うようにしている
- ・ 多職種との連携を図り、仕事がスムーズに行くようにしている。今後は福祉機器など、新しいものを取り入れ、よりスムーズに仕事が行えるように、いろんな情報を集めると良いと思う

3. 入退所について

- ・ 毎月の会議を継続し、家族や各機関への連絡を十分に行うようにした
- ・ 入所・退所が円滑にでき、欠員が少なくなるように、事前の調査・調整などを早めに行

う。在宅利用者や緊急性のある利用者の状況を把握して、入所の希望の相談にできる限り対応した

- ・ 8～9 月に、入居希望申込者のうち、申し込み後一年以上経過している方々に、葉書で意向調査を行った。38 人に実施し、26 人から返信があり、うち 3 人が死亡の為申し込み辞退、また、5 人の方が辞退された。また、10 人に状況の変化等の連絡があった

<資料1. 入所者の状況 (R6.3.31 現在) 定員 80 名>

① 年齢別

年齢	男	女	計
60 歳以下	0	0	0
60～69 歳	2	1	3
70～74 歳	0	3	3
75～79 歳	0	7	7
80～89 歳	2	12	14
90～99 歳	4	27	31
100 歳以上	0	3	3
合計	8	53	61

平均年齢… 88.1 歳

男性… 84.5 歳

女性… 88.6 歳

※昨年度平均年齢
… 88.2 歳

75歳未満 6 名
75歳以上 55 名 [90 歳以上 34 名]
(最高齢者 101 歳 1 名)

② 介護度別

介護度	男	女	計
要介護 1	0	0	0
要介護 2	0	5	5
要介護 3	5	17	22
要介護 4	3	14	17
要介護 5	0	17	17
合計	8	53	61

平均要介護度… 3.8

※昨年度平均要介護度
… 3.6

③入・退所者数

i.入所者数(R5.4.1～R6.3.31)

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年
男	0	0	2	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	4
女	1	1	1	2	3	1	1	1	1	1	2	0	15	14
計	1	1	3	2	3	1	1	1	1	1	2	0	17	18

- ◎入所理由
- ・退院により、在宅介護が困難のため・・・ 8名
 - ・在宅からの入所は、介護負担大きく、在宅生活困難のため・・・ 7名
 - ・他の施設より・・・ 2名

◎入所順位

- ・4月順位表
 - ・4月 :56人中44番
 - ・5月 :56人中57番 入所判定会議後の申込み
 - ・6月 :56人中42番
 - 〃 :56人中33番
 - 〃 :56人中58番 入所判定会議後の申込み
 - ・7月 :56人中51番
 - 〃 :56人中59番 入所判定会議後の申込み
 - ・8月 :56人中34番
- ・8月順位表
 - 〃 :55人中56番 入所判定会議後の申込み
 - 〃 :55人中11番
 - ・9月 :55人中57番 入所判定会議後の申込み
 - ・10月 :55人中1番
 - ・11月 :55人中22番
- ・11月順位表
 - ・12月 :45人中27番
 - ・1月 :45人中1番
 - ・2月 :45人中46番 入所判定会議後の申込み
 - 〃 :45人中23番

- ※ 入所検討委員会は、年3回(7月、11月、3月)に実施し、翌月から適用
- ※ 入所においては入所検討委員会を持ち、公正な立場で検討を行っている。
特に、本人の入所への意向を重視している

<資料 2. 行事報告>

月日	行事	月日	行事	
4.	コロナ感染の為、行事中止	10.1	新米を食べる会	
		11.7	運動会	
5.1	開園記念日	15	紅葉ドライブ	
5	端午の節句	25	ショート部門ドライブ	
8	花祭り行事・母の日行事	12.7	大祓い	
6.2	蛍見物		22	クリスマス会
7	大祓い		23	しめ縄づくり
20	父の日行事		28	餅つき
7.7	氷とかし・七夕	1.1	おとその会	
25	夏祭り・縁日	5	三社詣り	
8.7	盆供養	2.2	節分祭	
24	地藏祭り	15	寒さを吹きとばそう会	
9.14	敬老会	3.3	ひな祭り	
26	十五夜			

※奇数月に “お経と法話”、“お茶会”を実施

※毎月誕生会

※毎月誕生会前日には生花クラブ

《 介護部門 》

入居者は、様々な病気や障害を抱え、ニーズも多様化しており、入居者一人一人に、より細やかな個別ケアが求められている。専門職として、技術の向上、知識の習得とともに、ケアの充実を図り、取り組みについても評価する必要がある。また、安定的・永続的にサービスを提供するために、自分達のケアの意義を理解し、できることは何かを考え、率先して行動できるように、取り組みを継続している。

・・・ 重点項目 ……

1. 看取りケア

- ・ 入居者の人生の最期について考え、思いを伝えあう機会をつくっており、今後も継続していく
- ・ 全国老人福祉施設協議会主催の山口県相互研修会で、看取り事例の発表をした。取り組みが評価され、岡山県で行われた中国大会でも、発表し看取りケアの意義を改めて感じる事ができた。園内で報告会を行い、職員全員で思いを共有した
- ・ 各担当が、家族と信頼関係を築けるように関わっており、今後も継続していく

2. 排泄ケアの充実

- ・ 入居者の機能の維持や向上につながるように、個別の物品を活用し、定期的に評価を行い、対応を徹底している

3. コロナウイルス集団感染

- ・ 4月と1月に園内でコロナウイルス感染症の集団感染が発生した。日々状況が変化する中、常に臨機応変な対応が求められ、改めて正しく統一した知識を得ることの必要性を感じさせられた。マニュアルの再確認とともに、全職員でのシュミレーションを行っていく
- ・ 感染対応中は、入居者は制限のある生活の中で、さらに体力低下や認知力の低下を招くこともあり、意図的な関わりも求められる
- ・ 職員にとってもストレスが大きく、長引く程、より疲弊するので、目標を設定し、ゴールがあることを声をかけ合い、意識づけも行いながら、感染対応を行った
- ・ 今回の経験を通して、日常の大切さ、ありがたさが再確認できたので、日々のケアに生かしていきたい

4. 介護機器について

- ・ さらに効率的に細やかなケアを継続するために、見守りシステムや移乗機器などのデモンストレーションを行った

- 見守りシステムの「眠りスキャン」や「アンシエル」は、マットレスに敷くことで、常に体動(呼吸、寝返り、心拍)を検出し、リアルタイムで表示するので、睡眠状態を把握できる。看取りケアや徘徊者をデータ化して分析し、ケアに生かせる効果を実感した



「眠りスキャン」
「アンシエル」



パソコン画面に体動(呼吸、寝返り、心拍)が表示される

- 移乗機器については、「サラフレックス」「スマイル」などを試みた。一人一人状態が違うため、全員に使用できるものはないが、入浴時や排泄時などの職員の腰痛を感じる場面で、活用できる可能性を感じた



「サラフレックス」



「スマイル」

- 今後、さらに検討して、ケアに生かしていく

5. 職員の資質向上

- 話すことの大切さを再確認し、一緒に働く仲間同士、悩みや考えを相談し合い、少人数で意図的に話す機会をつくっており、今後も継続していく
- それぞれ職員のレベルに合わせて、実践の中で指導し、認め合う雰囲気の中で自信につながるように、今後も取り組んでいく

《 看護部門 》

令和5年5月に新型コロナウイルス感染症が5類となり、世の中が大きく変化し、生活様式も徐々に以前のような生活へと戻ってきている。しかしながら、新型コロナウイルスの感染力が衰えるわけではなく、入居者も、高齢で様々な疾患をもち生活されておられ、感染症に罹ると重症化しやすい為、感染対策をしながら健康管理に努めた。

・・・ 重点項目 ……

1. 入居者の健康管理

- ・ 多職種連携し、体調の変化に早く気付き、早めの対応を行った
- ・ 9月から、美東病院内科医による往診(2~3回/月、水曜日の13:30~1時間程度)が開始された。体調について相談できるようになり、今まで以上に園の生活を安心して過ごしていただけるようになった
- ・ 新型コロナ、インフルエンザ、肺炎球菌ワクチンについて、希望者へ接種でき、感染症予防に努めた
- ・ 看取りについて、主治医との連携により、4名の方が最期まで園で過ごす事が出来た。また、病院で亡くなられた方は8名、長期入院で退所の方は14名だった

2. 感染症予防対策(新型コロナウイルス感染症、インフルエンザ、食中毒等)

- ・ 4月2日に入居者6名、職員2名の新型コロナウイルス感染症発症あり、その後クラスターとなった。宇部健康福祉センターから医師1名、看護師1名が園に派遣され、感染対応の具体的指導を受け、感染対応を行い、同月21日に終息した(利用者34名、内3名入院。職員14名感染あり)
- ・ 1月9日入居者1名の発症あったが、16日に回復後、18日入居者4名の発症あり、1名が入院した。25日まで感染症対応を行い、新たな感染者なく、終息し翌26日から感染症予防対策をしながらの普段の生活に戻った。この間、職員の感染はなかった
- ・ インフルエンザは、職員の発症はあったが、園内への持ち込みもなく感染はなかった
- ・ その他、ノロウイルス感染症や食中毒等なかった

3. 職員の健康管理

- ・ R6年3月末まで、新型コロナウイルス抗原検査を全職員、2回/週実施し、体調管理を行った
- ・ 不調時には、早目の受診や休暇をとり、体調管理に努めている
- ・ 定期健診も終了し、結果に基づいて個別に現状確認や受診勧奨を行った

4. 専門職としての役割

- ・ 多職種との連携や看護職員間での統一した視点での対応に心がけた
- ・ 各委員会や研修に参加し、自己研鑽に努めた

5. 定期受診、臨時受診、および入院の状況

- ・ 園内でコロナ感染症発症中は、定期受診が中止となり、処方のみであったが、終息後は今まで通り、定期受診や不調時には臨時受診もできた
- ・ R5年9月から往診が始まった為、受診も検査が必要な方が主となり、高齢の入居者にとっては、移動による体への負担が軽減できた
- ・ 定期受診の件数は、前年度より150件程度減少している。臨時受診も適宜相談出来、前年度より60件程度減少している
- ・ 入院数はそれ程変わっていないが、高齢で医療の継続が必要な方は、長期入院となり、退所となった

《令和5年度受診状況》

表1. 外来受診件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年 実績	前年 差異	
定期受診	R02	55	38	55	54	44	52	53	45	51	56	43	64	610			739
	R03	53	63	75	80	84	61	67	67	63	48	60	67	788			
	R04	77	70	69	58	64	64	71	72	56	27	49	62	739			
	R05	11	67	54	59	58	45	45	62	48	29	49	53	580			
	内訳	美東病院	(8)	(41)	(36)	(38)	(39)	(27)	(25)	(34)	(22)	(11)	(27)	(29)	(337)	406	-69
		竹尾クリニック	(1)	(16)	(11)	(16)	(8)	(7)	(10)	(18)	(16)	(12)	(13)	(16)	(144)	188	-44
		田代台病院		(6)	(5)	(3)	(7)	(7)	(8)	(6)	(7)	(3)	(4)	(5)	(61)	76	-15
		美祿市立病院	(2)	(3)	(1)	(1)	(3)	(1)		(2)	(1)	(2)	(3)		(19)	32	-13
		ねごろ神経内科		(1)		(1)		(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(1)	(9)	3	+6
		長門総合病院			(1)			(1)	(1)		(1)			(1)	(5)	10	-5
		山口大学附属病院					(1)			(1)			(1)		(3)	1	+2
		さかや内科クリニック												(1)	(1)	3	-2
		札幌クリニック						(1)							(1)	1	+0
		山口済生会病院														9	-9
		時澤史郎先生														3	-3
		植田救急クリニック														3	-3
		岡田病院														2	-2
伊佐齒科														1	-1		
藤村内科クリニック														1	-1		
															+0		
															+0		
臨時受診	R02	13	6	14	13	13	11	13	12	13	10	5	15	138	164	-61	
	R03	18	20	14	13	13	32	22	14	11	12	7	19	195			
	R04	16	8	13	22	18	13	11	13	17	10	5	18	164			
	R05	4	8	8	12	14	10	7	8	8	9	9	7	104			
	内訳	美東病院	(3)	(3)	(6)	(8)	(10)	(7)	(5)	(6)	(7)	(7)	(8)	(4)	(74)	104	-30
		美祿市立病院		(3)	(1)		(4)				(1)	(2)	(1)	(1)	(13)	17	-4
		竹尾クリニック		(1)	(1)	(1)				(2)					(5)	16	-11
		田代台病院				(1)		(2)	(2)						(5)	4	+1
		札幌クリニック				(1)								(1)	(2)	1	+1
		さかや内科クリニック						(1)							(1)	3	-2
		植田救急クリニック												(1)	(1)	4	-3
		山口赤十字病院				(1)									(1)		+1
		厚狭セントラル病院	(1)												(1)		+1
		山口済生会病院														6	-6
長門総合病院															5	-5	
時澤史郎先生															1	-1	
小郡第一病院															1	-1	
山口大学附属病院														1	-1		
ねごろ神経内科														1	-1		
合計	R02	68	44	69	67	57	63	66	57	64	66	48	79	748	903	-219	
	R03	71	83	89	93	97	93	89	81	74	60	67	86	983			
	R04	93	78	82	80	82	77	82	85	73	37	54	80	903			
	R05	15	75	62	71	72	55	52	70	56	38	58	60	684			

表2. 月別入院者数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年実績	前年差異
件数	R02	9	5	7	10	7	7	9	5	5	2	0	3	71		
	R03	5	4	2	3	4	9	9	5	6	4	5	3	69		
	R04	3	8	5	5	3	3	5	3	3	4	1	7	59		
	R05	6	8	3	3	4	1	4	2	3	3	4	1	42	50	-8
内訳	美東病院	(3)	(5)	(3)	(3)	(2)	(1)	(3)	(2)	(2)	(1)	(4)	(1)	(30)	35	-5
	田代台病院		(1)			(1)		(1)		(1)				(4)		+4
	美祢市立病院		(1)								(2)			(3)	3	+0
	山口済生会病院		(1)			(1)								(2)	8	-6
	山口宇部医療センター	(2)												(2)		+2
	宇部興産中央病院	(1)												(1)		+1
	長門総合病院	(1)												(1)	3	-2
	小郡第一病院														1	-1

表3. FAX 処方件数

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年実績	前年差異
件数	R02		7	2			1		5	1			1	17		
	R03		10	2	6	8	5	8	6	4	16	4	3	72		
	R04	5	7	3	12	12	9	5	2	19	41	30	13	158		
	R05	82	2	1	3	9	23	3	0	7	44	4	9	187	158	+29
内訳	美東病院	(46)	(1)	(1)		(1)	(10)	(2)		(5)	(38)	(2)	(6)	(112)	84	+28
	竹尾クリニック	(25)			(1)	(7)	(11)			(1)	(2)		(2)	(49)	39	+10
	田代台病院	(6)						(1)			(3)	(2)		(12)	21	-9
	さかゝい内科クリニック	(2)	(1)		(2)	(1)	(2)			(1)	(1)		(1)	(11)	6	+5
	美祢市立病院	(2)												(2)	8	-6
	長門総合病院	(1)												(1)		+1

表4. 往診件数(診察・処方件数) (除く、歯科往診)

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	前年実績	前年差異
件数	R02	10	14	16	19	25	17	47	16	15	16	29	28	252		
	R03	65	38	25	45	40	37	34	43	30	32	27	35	451		
	R04	29	20	33	24	19	35	45	26	23	3	1	3	261		
	R05	0	2	11	2	1	19	26	46	35	7	22	16	188	261	-73
内訳	美東病院						(19)	(24)	(44)	(33)		(21)	(15)	(156)	1	+155
	さかゝい内科クリニック		(2)	(2)	(2)	(1)		(2)	(2)	(2)	(1)	(1)	(1)	(16)	12	+4
	竹尾クリニック			(9)							(6)			(15)	7	+8
	時澤史郎先生														241	-241

《 リハビリ部門 》

今年度は、もし自分がホームに入ったらこんな楽しい活動があるんだと実感できるような日々になるよう努力するという目標にした。実際に活動して、一番は提供する側が元気いっぱい楽しむこと、笑顔で利用者と向き合うことだと痛感している。これからもその姿勢を忘れないようにしていきたい。

1. 体操

- ・いつもの定番の動きだけでなく、変化をつけて行ったが、利用者は少し動作が遅くなってもしっかりやれたと感じている
- ・行事で歌う歌を体操のあと練習したり、季節を感じられる歌のリクエストを待ってみんなで歌ったり、常に利用者本位であることを大切にしたい

2. 個別リハビリ

- ・リハビリ部会で協議し、生活の中で必要なニーズも把握しつつ、メンバーの入れ替えも行った。何より安全にできることを第一とし、次にはその方の充実感、達成感を大切にすることを意識した

3. グループワーク

- ・体操には、呼吸リハビリや姿勢をよくする体操を度々取り入れ、マスターしてもらうことを心掛けた
- ・体操の後のリラックスタイムとして、まず利用者の希望をしっかりと聞き、実行するようにした。中でも、ひとりひとりが自分の思っていることを話せる機会を持つようにした
- ・競争するメニューは好評なので、これからもしっかりと取り入れたい

4. 居室で臥床がちな方に対して

- ・ベッドをギャッジアップすると座る姿勢になれる方がほとんどで、向い合うようにして対話しながら一緒に手を挙げたりマッサージを行った。マッサージを待っていると言われる方もあり、言葉のやりとりができる方にはできる限り対話するようにした。今後も、座る姿勢をつくり、声を出すことを継続したい

5. 地域の利用者からのリハビリニーズについて

- ・リハビリニーズはサービス利用前に情報収集し、迅速に対応した
- ・短期入所の方の体操やレクリエーションも、利用者と一緒に楽しいひと時を過ごせるよう心掛けた

《 栄養給食部門 》

入居者の方一人一人にあった食事提供することで入居者の生活機能の維持・改善が出来る、食事をおいしく食べることによって園で楽しく、充実した生活が送れるように努めた。職員も利用者の支援が円滑に行えるように主体的に関わり、働きやすい体制になるように見直しや改善を行い、業務に取り組んだ。

・・・ 重点項目 ……

1. 食事環境

- ・ 食堂や厨房の掃除や整理整頓を行い、利用者が気持ちよく食事が出来るように努めた

2. 行事食の実施

- ・ 月に1度の誕生会など行事に合わせた献立や入居者の要望に合わせた献立を提供した
- ・ デザートや麺類などの選択食や利用者にとってもらう鍋料理等を実施した
- ・ 食生活委員で話し合いを行い、利用者が好まれるデザートの提供や誕生日にミニケーキのプレゼントを実施した
- ・ 器や盛り付にも配慮して食事を提供。入居者に「食」に対して関心・興味を持ってもらい、毎日の食生活に変化を持たせ、施設での生活の楽しみにしてもらえるように努めた
- ・ 好みの献立は、食事形態に関係なく多職種と連携をとり、安全に食べてもらえるように提供を行うように努めたが細かいところまでの配慮は難しかった

3. 個別対応

- ・ 多職種と連携し、毎月1週間残菜調査を実施して食事状況を把握し、その人に適した食事(食事形態・食事量)を提供し、食事摂取量が増えるように努めた
- ・ 食事摂取が難しい方には栄養補助食品を提供し、無理なく栄養補給が出来るように努めた
- ・ 個別に栄養ケアプランを作成、より適切な栄養管理が実施出来るように努めた
- ・ 嗜好調査を実施し、個別の嗜好にあわせた対応を行った
- ・ 療養食・食欲のない方は、食べたいものや食べることが出来るものを量の調整をして提供するなどの対応を行った
- ・ ターミナルの方は、多職種と連携をとり、随時できる限りの対応を行った
- ・ 食事を自分で食べてもらえるように自助具の使用(スプーンや食器など)多職種と検討を行った

- ・ ユニットの担当職員が中心となり、積極的に入居者と関わり、職員の窓口となり、きめ細かい対応を行うように努めた

4. 業務向上への取り組み

- ・ 入居者に食べやすい食事を提供出来るように食材や調理方法の検討を随時行った
- ・ 職員が効率的に業務を行えるように話し合い、作業手順の改善や調理設備の修理・購入などを行っている
- ・ 入居者数の増減に対応して使用食材量の調整を行い、冷凍食品等は必要量のみ使用するなどして、食材ロスを減少出来るように努めている
- ・ スキルアップや業務の効率化が図れるように業者などから情報収集を行っている

5. 安全な食事の提供

- ・ 衛生面に配慮し、気温・湿度を確認しながら食材や調理済み食品の取り扱いに注意して食中毒が発生しないようにしている
- ・ 感染症に職員数名が感染したが園内に持ち込まないように努めた

<資料1. 行事食・選択食実施実績表>

月	日	行事食・選択食
4月	28日	誕生会
5月	1日	開園記念(折詰弁当、紅白饅頭【プリン】)
	5日	端午の節句(山菜寿司・ぜんざいなど)
	8日	母の日(赤飯・茶碗蒸し・そば汁・梅酒寒天など)
	〃	花祭り(甘茶・お菓子他)
	30日	誕生会
6月	4日	手作りゼリー (食生活委員会企画)
	20日	父の日の行事(枝豆ご飯、うなぎのかば焼き・メロンなど)
	28日	誕生会
7月	7日	氷とかし(かきもち)
	〃	七夕祭り(そうめん・揚げ出し豆腐・スイカなど)
	13日	ミニフルーツバイキング(メロン・オレンジ・びわ・スイカ・キウイ・パイナップルなど)
	25日	縁日(鯛焼き・アメリカンドッグ・唐揚げ・かき氷・焼鳥・ノンアルコールビール他)
	28日	誕生会
	30日	土用(うなぎ井他)

8月	12日 15日 24日 30日 31日	主食選択食(そうめん 又は そば) お盆(おはぎ・炒り鶏など) 地蔵祭り(鯛焼き・アメリカンドック) 誕生会 選択食(マンゴープリン 又は シャインマスカットゼリー)
9月	14日 23日 26日 29日	敬老会(折詰弁当、紅白饅頭、プリンなど) 彼岸法要(おはぎなど) 十五夜(お月見饅頭など) 誕生会
10月	10日 12日 17日 26日 31日	新米を食べる会(新米むすびを昼食に提供。) さつま芋プリン【昼食時デザートとして提供】(食生活委員会企画) 秋の大運動会(いなし寿司・おかずの盛り合わせ他) 誕生会 ハロウィン(かぼちゃプリン)
11月	8日 28日	おでん(鍋料理) 誕生会
12月	5日 16日 22日 〃 28日 31日	湯豆腐(鍋料理) 誕生会 冬至(かぼちゃのいとし煮) クリスマス会(ビーフシチュー・ケーキ他) 餅つき(あんピン餅) 大晦日(天ぷら・そば汁他)
1月	1日 7日 11日 27日	お屠蘇の会(おせち料理・雑煮他) 七草粥 鏡開き(ぜんざい) 誕生会
2月	1日 2日 14日 15日 27日	おでん(鍋料理) 節分(巻き寿司・鰯の生姜煮他) バレンタインデー(チョコプリン) 湯豆腐(鍋料理) 誕生会
3月	1日 20日 29日	ひな祭り(三色押し寿司寿司・そば汁など) お彼岸(おはぎ) 誕生会

<資料2. 食事形態> 入居者 62 名 令和 6 年 4 月現在
(入院6名を除く)

主食 ()内は昨年度

ご 飯	むすび	軟 飯	全粥	ゼリー粥	主食なし	経管栄養
12 名 (13 名)	3 名 (1 名)	16 名 (21 名)	13 名 (15 名)	9 名 (7 名)	2 名 (5 名)	1 名 (1 名)

副食 ()内は昨年度

ふつう	荒きざみ	きざみ	嚥下困難食	副食なし	経管栄養
18 名 (22 名)	10 名 (11 名)	15 名 (14 名)	10 名 (10 名)	2 名 (5 名)	1 名 (1 名)

<栄養摂取状況> 令和 5 年 4 月～令和 6 年 3 月の平均

	カロリー [Kcal]	蛋白質 [g]	脂質 [g]	C a [mg]	F e [mg]	VA [ug]	VB1 [mg]	VB2 [mg]	VC [mg]
平均栄養 給与量	1349	53	31.2	505	7.6	510	0.6	0.71	86
目標栄養 給与量	1400	55	30.0	650	7.0	700	1.0	1.0	100
充足率	96.4%	96.4%	104.0%	77.7%	108.6%	72.9%	60.0%	71.0%	86.0%

<栄養ケアマネジメント>

スクリーニング→アセスメント→ケアプラン作成・実行→評価→再スクリーニング

栄養スクリーニング (目安)

	BMI	体重減少率(1ヶ月)	アセスメント
高リスク	21.5未満	5%以上減少	2週間ごと
中リスク	21.5未満	3～5%以上減少	1ヶ月ごと
低リスク	21.5～24.9	3%以上減少	3ヶ月ごと

令和 6 年 4 月現在の栄養スクリーニング評価結果 ()内は昨年度
(入院 6 名を除く)

高リスク者 7 名 (11 名)
中リスク者 43 名 (49 名)
低リスク者 6 名 (3 名)

令和5年度 事業報告

令和5年度においても、コロナ感染症に対応しつつ入居者の生活支援に努めた。施設におけるコロナウィルス集団感染は、7月から8月にかけて入居者5名、9月初旬に4名の感染があった。医療機関との連携もとれ重症化を防ぎ、さらに初期対応も混乱なく出来たこともあり、感染者数も最小限で抑える事が出来た。

日常生活支援と感染対応を行う上で、入居者の生活の質を維持しつつ職員の心身負担を軽減する為、以下の取り組みを行った。

・・・ 重点項目 ・・・

1. ケアの見直しと業務改善

- ・ 入居者の状態変化が、短期的か長期的か分析しつつ、その心身状態に応じたケアを行った。また、感染対応等の環境因子が原因となった状況を回復するよう努めた
- ・ 業務全般においても、過度な負担が偏らない様に食事面・清掃面・入浴面と場面を整理し、各部署、各職種が協力できるよう計画を立て実施した。途中、職員の休職等により、目標が完全に達成できてはいないが達成可能な事項から取り組み継続している

2. 認知症ケア

- ・ 感染対応をすることで、大きく認知機能の低下がみられた。
- ・ 認知機能の低下から周辺症状も多くみられ、その都度、専門医に相談しながら対応した
- ・ 幻覚や帰宅願望等、傾聴を意識して対応し、基本である否定しない事を職員間で周知して関わった為、上半期に多くみられた周辺症状も、次第に落ち着き始めた

3. 往診と看取りケア

- ・ 9月から月に1回、美東病院の医師による施設往診が始まった。毎月平均10名の利用者が往診を受け、健康管理や予防接種なども滞りなく対応する事が出来た。また、身体状況が不安定な入居者や看取り期にある入居者の状態確認もでき、利用者及び家族、職員の安心にもつながった。
- ・ 施設で看取りを行った方は、1名であった。上記で報告した定期往診もあり、往診後には家族へ状況を細かく報告する事も出来た。また、日常の観察においては、試験的にバイタル(心拍・睡眠など)を測定できるセンサーを取り入れ、介護職員の安心感にもつながった。最期の診断は、医療機関で行われたが搬送においてもトラブルなくでき、

受け入れもスムーズであった。

4. 職員のスキルアップと職場づくり

- ・ 研修システムを活用した研修の実施は出来なかった。施設外の研修においても、人材不足等もあって消極的になってしまった
- ・ 働きやすい職場づくりを目標に、課題を抱えている職員に対し、施設長、課長等上位職員との面談を繰り返し、個人の思いや希望を聴きとり、対応した

5. 介護報酬(レセプト請求)について

- ・ 上半期は、退居後の新入居に係る時間は平均1週間程度であった。下半期にかけては、コロナ感染症の影響もあり入居の調整に時間がかかり欠員日数が増加した。しかし、在園者の介護度も重度化し、基本報酬は増加に繋がっている

<介護報酬に関する資料>

表1. 介護報酬(月次レセプト請求額の集計)の状況

		R3 年度	R4 年度	R5 年度
人数 (稼働率)		9,866 (96.7 %)	10,233 (92.8 %)	9,818 (95.9 %)
介護報酬	基本報酬の部分	84,690,670	81,987,190	84,352,570
	加算の部分	13,258,340	12,834,910	13,295,630
	処遇改善加算の部分	10,775,030	11,300,780	12,303,110
	合計	108,724,040	106,122,880	109,951,310

※ 稼働率 = 定員 29 名 × 365 日(うるう年は366 日) に対しての稼働率

《 生活相談部門 》

感染対策を継続しながら最大限の面会受け入れや、その人らしい生活を送られるようにできる限りの対応を行ってきた。利用者・家族が安心して「秋芳の里で生活できてよかった。」と思ってくれる様、また安心して相談して頂けるような関係づくりに努めた。

1. 利用者・家族との関わりについて(ケアマネジメントも含めて)

- ・ コロナ禍において、面会等の情報を的確にご家族に伝え、ご理解頂きながら安全に面会を行い、身元引受人以外の方の受け入れも積極的に行ってきた
- ・ 状態変化時にも利用者・家族の思いをくみとり、多職種でカンファレンスを行い、思い・ニーズが反映したケアプランを作成し、実行してきた
- ・ 看取り期については、多職種を交えたカンファレンスを実施し、家族の気持ちの変化に寄り添い、こまめに情報提供を行った。感染対策を実施した上で自宅へ帰られたが、園内のコロナ感染に伴い面会ができない時期もあった。振り返りも行った

2. 地域やボランティアとの関わりについて

- ・ 少しずつボランティアの受け入れを行い、交流を楽しまれた
- ・ 安全に配慮したドライブを計画し、季節感を味わいながら楽しむことができた
- ・ やまびことして、地域の行事に参加し関係づくりを継続しながら地域に根差した施設としての役割を果たすように努めた

3. 入退所について

- ・ 入居に合わせて早めに声かけを行ってきたが、園内のクラスター、他施設との関係性からスムーズな入居につながらないことがあったが、緊急・特例入所も行ってきた。できる限りスムーズな入居に移行できるよう、今後も努めていきたい

4. 実習・研修について

- ・ 実習について、新カリキュラムに伴う相談援助実習ⅠⅡ両方の受け入れを行う中で、新プログラムを作成することができた。施設内のクラスターや実習生の変化や思いに気づけないこともあり、実習中止になることもあった。今後は、実習生との対話を大事にししながら、思いをくみとり学校との連携を図りながら実習指導に取り組んでいきたい

<資料1. 入所者の状況 (R5.3.31 現在) 定員 29 名>

1. 介護度別

① 全体

()内は、昨年度

介護度	男	女	計
要介護 1	0 (0)	1 (0)	1 (0)
要介護 2	2 (1)	6 (5)	8 (6)
要介護 3	2 (2)	9 (8)	11 (10)
要介護 4	0 (0)	3 (5)	3 (5)
要介護 5	1 (1)	4 (7)	5 (8)
合計	5 (4)	23 (25)	28 (29)

平均介護度 = 3.1

(R1 年度 = 3.17)

(R2 年度 = 3.17)

(R3 年度 = 3.50)

(R4 年度 = 3.50)

② ユニット別

花尾ユニット

介護度	男	女	計
要介護 1	0	1	1
要介護 2	1	1	2
要介護 3	1	4	5
要介護 4	0	2	2
要介護 5	0	0	0
合計	2	8	10

平均介護度 2.8

桂木ユニット

介護度	男	女	計
要介護 1	0	0	0
要介護 2	0	4	4
要介護 3	1	2	3
要介護 4	0	1	1
要介護 5	0	2	2
合計	1	9	10

平均介護度 3.1

治郎丸ユニット

介護度	男	女	計
要介護 1	0	0	0
要介護 2	1	1	2
要介護 3	0	3	3
要介護 4	0	0	0
要介護 5	1	2	3
合計	2	6	8

平均介護度 3.5

2. 年齢別

① 全体

()内は、昨年度

年齢	男		女		計	
60～69歳	0	(0)	0	(0)	0	(0)
70～74歳	0	(0)	0	(0)	0	(0)
75～79歳	0	(0)	0	(0)	0	(0)
80～89歳	1	(1)	8	(8)	9	(9)
90～99歳	4	(4)	13	(15)	17	(19)
100歳以上	0	(0)	2	(1)	2	(1)
合計	5	(5)	23	(24)	28	(29)

平均年齢 …… 91.9 歳

(R1年度 … 89.3 歳)

(R2年度 … 90.0 歳)

(R3年度 … 91.4 歳)

(R4年度 … 91.9 歳)

- ◎ 男性平均年齢 …… 94.2 歳
- ◎ 女性平均年齢 …… 91.4 歳
- ◎ 75歳未満 …… 0名
- ◎ 90歳以上 …… 19名
- ◎ 最年長 …… 102歳

3. 入・退所者の状況

i. 入所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	1
女	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	1	6	5
計	0	1	1	1	0	2	0	0	0	0	0	1	6	6

- ・在宅より 6名、施設や病院より 0名、計 6名の入所があった
- ・入所理由は、独居により自宅生活困難、家族の介護負担増加等の理由だった
- ・入所待機期間は、7年 8か月～1か月であった

(入所者順位)

- ・5月の入所者は、51人中29番目
- ・6月の入所者は、51人中17番目
- ・7月の入所者は、51人中14番目
- ・9月の入所者は、48人中15番目
- ・9月の入所者の二人目は、施設長判断
- ・3月の入所者は、43人中29番目

ii.退所者数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	昨年
男	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
女	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	1	1	7	7
計	0	1	1	2	1	0	0	0	0	0	1	1	7	7

- ・退所理由・・・ 長期入院4名、死亡3名(うち、園での看取り1名)
- ・在籍期間・・・ 1年4カ月～12年11カ月

4. 入居待ち状況

	待機者		内訳			
			在宅		病院・施設 他	
	要介護 3～5	要介護 1～2	要介護 3～5	要介護 1～2	要介護 3～5	要介護 1～2
秋芳町	20	10	4	7	16	3
美東町	6	1	2	1	4	0
他の美祢市	2	0	1	0	1	0
合計	28	11	7	8	21	3

- ・秋芳の里と青景園の両方の希望者は、21名(うち要介護3～5の方は15名)
- ・秋芳の里のみの希望者は18名(うち要介護3～5の方は13名)

《 看護部門 》

1 感染予防対策について

- ・ <コロナウィルス感染症> 7月、9月に施設内感染及び集団感染があった。生活単位をユニット毎とし、利用者間の交流、接触をしない様対応した。感染者対応においても、対応の徹底を図り、10日から17日程度で感染の終息を迎える事が出来た。感染力は強かったものの、症状は軽症の方ばかりで、基礎疾患との合併症で入院する方も1名のみであった。予防接種の効果もあったと思うが、日頃の入居者の体力や免疫力も備わっていたことも要因と考える。地域でのコロナウィルス感染者も多く、病院受診においても、発熱外来を経由した後に診察となり、受診にかかる時間や労力も増えた
- ・ <インフルエンザ、ノロウィルス感染症> 季節性インフルエンザにおいては、職員が2名感染するも施設への持ち込みもなく終えた。また、ノロウィルスに関しては、感染者はいなかった
- ・ <その他感染症> 8月に退院した入居者から疥癬が見つかり、マニュアルに沿って対応を実施した。隔離や薬剤使用、ガウンテクニック等徹底した対応で、他者への感染はなかった

2 健康管理について

- ・ 年間通して、入院数は17名であった。入院の原因としては、気管支炎、肺炎が多く、尿路感染および個々の基礎疾患によるものであった
- ・ 受診の状況としては、内科以外には外科と皮膚科が多くあり、転倒による裂傷や蜂窩織炎などがあった。また、慢性の皮膚湿疹や老人性の掻痒症などがあり、受診後もなかなか改善がみられない状況であった。今後も、皮膚の保湿に気を付け、皮膚トラブルを早期に見つけ対応していきたい
- ・ 9月から、美東病院の医師による往診が、月1回あり受診による利用者の負担が軽減できた。また、看取り期の方への診療も依頼し、現状の把握と家族への説明、および職員の安心にもつながった

3 看取りケアについて

- ・ 看取りケアを行った方は、1名。老衰の診断を受け、家族が希望され施設で対応した。日中に、急変し病院へ搬送し死亡診断を受けた。事前に、病院と情報の共有を図り緊急時の対応を打ち合わせており、週末ではあったがスムーズな受け入れができた
- ・ 家族へは、その都度、説明および同意を頂いた。職員の振り返りでは、まだまだしてあげられることがあったと反省する反面、家族から「本人が望んで入った施設で、穏やかな最期が迎えられてうれしい」と職員へ話され、職員間で共有する事もできた

《令和5年度受診状況》

令和5年4月1日～令和6年3月31日(延べ人数)

受診病院	受診科・受診者数
美東病院	内科:180名 整形:24名 外科:18名 皮膚科:16名 耳鼻科:1名 計:239名
美祢市立病院	脳外科:2名
田代台病院	28名
植田救急クリニック	3名
あきよし竹尾クリニック	38名
さかい内科クリニック	3名
済生会山口総合病院	泌尿器科:13名 内科:1名 計:14名
山口大学医学部附属病院	皮膚科:6名
阿知須同仁病院	整形:3名

《配置医》

時澤医院

《往診状況》 (延べ人数)

秋芳歯科 25名
美東病院 (含む:計画的往診) 81名

《入院》 (延べ人数)

美東病院 14名
済生会山口総合病院 2名
阿知須同仁病院 1名

《 栄養給食部門 》

楽しみのひとつである食事。入居者一人一人の生活習慣や好みを尊重し、家庭的な雰囲気の中で、食事を美味しく楽しく食べられ、より充実した生活が送れるように努めた。

1. 食事環境について

- ・ 朝起きたら、ご飯が炊ける匂い、味噌汁のできる匂いがする、そんな日常の風景を大事にし、家と同じ食事空間をユニット職員と協力して作った
- ・ 四季を体で感じる外での食事も計画していたが、コロナウイルス感染症対策で実施出来なかった。そのかわりに、日々の食事でも季節を感じるメニュー（花見週間、七夕週間、紅葉週間）にして、食事から季節を感じてもらえるよう工夫した

2. 個別対応について

- ・ 入居者一人一人の生活習慣や好みを尊重した（食事時間、食事場所、食器、好みの温度や量、食事形態、食事内容など）
- ・ 一人一人にあった食事形態を多職種で検討し、安全においしく食べられるようにした。嚥下困難な方には、危険のない食事内容にして提供した（毎食の中に栄養補助食品も取り入れて、安全に口から食べることを楽しんでもらった）
- ・ 特に食欲のない方へは、早めに多職種と連携をとり、本人に話を聞きながら、少しでも食べられる物をすすめた
- ・ 栄養ケアマネジメントによる個別の栄養計画、食事、水分量、体重増減把握など、多職種に協力してもらい形を整えてきた

3. ユニット調理について

- ・ 旬の野菜など使って、昔を思い出しながら食べたい物を調理することを楽しんだ（例：梅酒、梅干し、柏餅、味噌作り、おはぎ、ふきの皮むきなど）
- ・ コロナ禍でなかなかユニット調理もできなかったが、調理職員もユニット担当を決め、積極的にユニットに入って、コミュニケーションをとるようにしてきた

4. 業務の効率化について

- ・ 作業工程を見直し、問題が発生したらそのままにせず、すぐに話し合い解決し、より効率的になるようみんなで検討した
- ・ ショートステイ、デイサービスの利用人数を事前に確認し、食材の無駄がないように早めに調整してきた
- ・ 毎日、元気な挨拶から始まり、何でも話せる雰囲気作りをし、職員間の情報交換をして仕事のしやすい環境にしてきた

《食事形態》入居者 28 名(入院 1 名)

2024 年 5 月現在

ユニット	人数	主食			副食		
		ご飯	全粥	ゼリー粥	普通	刻み	嚥下困難
花尾	10	8	2		4	6	
桂木	9	5	3	1	6 (糖尿 1)	2	1
次郎丸	8	3	2	3	5 (減塩 1)		3
合計	27	16	7	4	15	8	4

《栄養摂取量》

エネルギー [Kcal]	蛋白質 [g]	脂質 [g]	Ca [mg]	Fe [mg]	レチノール当量 [ug]	VB1 [mg]	VB2 [mg]	VC [mg]
1381	58.5	29.7	555	8.2	620	0.7	0.8	79

《行事食》

月日	内容	
4月	1～2日	桜を感じるメニュー(昼食のみ) 入居者の方に食事の中から桜を探してもらいました。 (桜寿司、桜の葉つみれ汁、桜ようかん、桜蒸し、桜ゼリーなど)
	6日	4月の季節メニュー(春キャベツのロールキャベツ)
	7日	4月の季節メニュー(ふきご飯)
	8日	花祭り
	12日	4月の季節メニュー(苺水羊羹)
	21日	4月の季節メニュー(岩国寿司風)
	23日	中華メニュー(ラーメン、餃子など)
5月	1日～	秋芳の里の畑の野菜を毎食の料理に使用(パセリ、グリーンピース、スナックえんどうなど)
	5日	端午の節句メニュー(山菜おこわ、鯉のぼりバーグ、鯉のぼり饅頭など)、柏餅作り
	9日	5月の季節メニュー(季節の天ぷら)
	14日	母の日メニュー(豆ご飯、刺身、シュークリームなど)
	19日	5月の季節メニュー(若草揚げ)
	23日	5月の季節メニュー(山菜寿司、魚の木の芽焼き)
6月	1日～	秋芳の里の畑の野菜を毎食の料理に使用(パセリ、玉葱など)
	9日	6月の季節メニュー(ずんだ和え、紫陽花寒天)
	19日	焼きドーナツ作り
	20日	父の日メニュー(赤飯、刺身、抹茶饅頭など)
	23日	6月の季節メニュー(水羊羹)
7月	1日～	秋芳の里の畑の野菜を毎食の料理に使用(パセリ、玉葱など)
	3～8日	七夕週間、お星様メニュー(昼食のみ) 入居者の方に食事の中からお星様を探してもらいました。 (七夕寒天、きらきら寒天、☆型梅酒寒天、七夕寿司、七夕ハンバーグなど)
	7日	七夕メニュー(七夕寿司、七夕ハンバーグ、七夕フルーツポンチなど) 懐かし駄菓子屋など
	22日	7月の季節メニュー(冷しゃぶ)
	24日	7月の季節メニュー(とうもろこしご飯)
	30日	土用の丑の日メニュー(うなぎ丼など)

月日	内容
8月	1日 開園記念日メニュー(ませ寿司、紅白寒天など)
	13日 8月の季節メニュー(冷やしそうめん)
	14日 お盆 おはぎ作り
	21日 8月の季節メニュー(牛肉と夏野菜のさっぱり炒め)
	24日 地蔵祭り(赤飯、炊き合わせなど)
	25日 納涼祭(かき氷、駄菓子、すいか割り)
9月	1日 9月の季節メニュー(山路焼き)
	6日 9月の季節メニュー(秋芳梨のコンポート)
	7日 9月の季節メニュー(秋芳梨寒天)
	15日 敬老の日行事(折詰弁当、紅白饅頭など)
	18日 敬老の日お祝いメニュー(ちらし寿司、紅白なます、紅白寒天など)
	22日 9月の季節メニュー(栗ご飯、さばの塩焼き、柿なます、秋芳梨寒天)
	23日 お彼岸 おはぎ作り
	24日 中華メニュー(ラーメン、餃子など)
29日 十五夜 お月見メニュー(ぜんざい)	
10月	5日 各ユニットで新米を食べる会(新米むすび、豚汁など)
	20日 10月の季節メニュー(茄子のはさみ揚げ)
	21日 10月の季節メニュー(焼きなすの煮びたし)
	23日 10月の季節メニュー(きのこの炊き込みご飯、柿ようかん)
	30日 10月の季節メニュー(きのこ汁、ぶどう寒天など)
	31日 10月の季節メニュー(鮭ホイル焼き、柿なますなど) ハロウィンデザート(かぼちゃ羊羹)、ハロウィン(お菓子探し)
11月	3日 11月の季節メニュー(いもご飯、魚の幽庵焼きなど)
	9日 11月の季節メニュー(なめこ汁、手作りプリンなど)
	13日～ 18日 紅葉週間、紅葉狩りメニュー(昼食のみ) 入居者の方に食事の中から紅葉を探してもらいました。 (紅葉寒天、紅葉の形の人参、紅葉麩、紅葉型のつくねなど)
	29日 焼き芋大会
12月	10日 手打ちそば
	11日 12月の季節メニュー(鮭のホイル焼き、大根なます、こいも汁など)
	22日 冬至の食事(柚子ご飯、かぼちゃ含め煮など)
	24日 クリスマスメニュー(オムライス、コーンスープなど)
	25日 クリスマス会(苺のショートケーキ)
	28日 デイサービスと合同餅つき(あんぴん餅)
	31日 年越しそば

月日	内容	
1 月	1日	おせち料理(お皿はめ込み式の重箱に詰める)
	7日	七草がゆ
	11日	鏡開き(餅入りぜんざい)
	16日	1月の季節メニュー(かぶら蒸しなど)
	18日	1月の季節メニュー(寄せ鍋)
	23日	1月の季節メニュー(鮭のちゃんちゃん焼き)
2 月	2日	節分行事食(まき寿司)
	14日	バレンタインデーデザート(チョコ寒天)
	18日	郷土メニュー(かわらそば)
3 月	4日	ひなまつり行事食(菱餅風寿司、桃寒天、ひなあられなど)
	10日	行楽メニュー(フレンチトースト、シチューなど)
	20日	お彼岸おはぎ作り
	25日～ 30日	桜を感じるメニュー 桜週間、花見メニュー(昼食のみ) 入居者の方に食事の中から桜を探してもらいました。 (桜の形の人参、桜麩、桜蒸し、桜餅、桜ようかんなど)

★ 桂木農園(秋芳の里の畑)に発注した食材

今年は、葱、パセリ、春菊など *今年度は畑の管理がうまくできませんでした

美祢東地域包括支援センター(委託事業)

令和5年度 事業報告

長期にわたる新型コロナウイルス感染症の影響により地域の活動や交流の機会が減少し高齢者の運動機能や認知機能低下の要因となった。また、在宅支援の中心である通所介護や訪問介護の事業所が、人材不足や経営収支等様々な要因により、年々相次いで閉鎖となっている。このことにより地域の高齢者介護及び生活支援体制がさらに脆弱化が進む結果となった。

高齢者が住み慣れた地域で安心して生活を継続していくことができるように、各関係機関と地域課題を共有し、住民主体の介護予防活動の推進やちょっとした生活の困りごとを地域で支え合える体制整備を喫緊の課題として取り組んでいくことの重要性を感じている。

・・・ 重点項目 ・・・

1. 地域課題を共有し、支え合う仕組みづくりに取り組む

3年前より共和地区において災害避難に関する地域ケア会議を積み重ね、災害避難に関する様々な課題を明確にし、協議により出された解決方法や公助の必要な案件について政策につなげていただくよう提言することができた。また住民の要望であった総合運動公園の新たな指定避難場所の見学ツアーにつながり各自治会で防災への取り組みの必要性についての意識が向上していることを確認できた。今後も各関係機関と連携しながらお互いが声をかけて助け合える地域づくりに引き続き取り組んでいきたい。

2. 住民主体の介護予防活動の活性化を図る

春に、秋芳地区全域を対象にノルディックポールを活用したウォーキング教室を開催し、高齢者が元気なうちから気軽にウォーキングに取り組んでもらうように支援を行った。9月には3カ月コースで岩永本郷地区においてきらめきシニア教室を毎週開催した。20名の参加があり終了後には自主グループにつなげることができた。また、美東病院のPTや田代台病院のSTの監修による「よい世さこい体操」の普及啓発を行った。地域のサロンや介護予防自主グループの活用が増える結果となった。

<資料>

1. 基本業務

・総合相談 (延べ件数)	1550 件
〃 (実人数)	409 人
・配食サービス利用アセスメント会議	16 件
・介護予防プラン 作成件数 (要支援1・2 事業対象者)	1921 件
〃 委託件数	556 件

2. 包括的・継続的ケアマネジメント支援

・ケアマネ支援会議(秋芳・美東合同)	9 回
・地域ケア会議 (困難事例、自立支援、地域課題)	13 回
〃 (参加人数)	167 人

3. 介護予防普及啓発

・一般介護予防 (きらめきシニア教室・きらめきシニアウォーク)	17 回
〃 (参加人数)	229 人
・介護予防自主グループ・サロン活動支援	33 回
〃 (参加人数)	148 人
・健康教育(サロン、民生委員会、地域団体等)	41 回
(参加人数)	728 人

4. 認知症対策

・認知症初期集中支援チーム会議	12 回
・おしゃべりカフェ開催	11 回
・みにケアネット(医療介護連携)	5 回

5. ネットワークづくり等

・保健事業と介護予防の一体事業	6 回
・民生委員会(秋芳・美東)	22 回
・地域密着型サービス運営推進会議	15 回
・災害支援台帳、1人暮らし実態調査台帳の更新(秋芳・美東)	479 人

在宅介護支援センター青景園

令和5年度 事業報告

5年度は、高齢者が様々な要因で生活がしづらくなっても、尊厳が守られて、住み慣れた自宅等で自立した生活が継続できるように、多職種で連携して支援に努めた。

また、コロナ禍での支援については行政やサービス事業所と、これまで以上に情報を共有し、連携を図りサービスの中断や中止が最小限度にとどまるように、代替サービス等で支援に努めた。

・・・ 重点項目 ・・・

1. 多職種連携の強化

- ・ 本人のみならず家族全体の支援の必要なケースが増えている。困難事例として所内会議で検討したり、包括支援センターに情報提供や相談をして、ケア会議等で多職種で連携して、段階的に解決に向けて支援した。今後もそのような事例については多職種で取り組む必要性を改めて感じた
- ・ 5類移行により、担当者会議等、顔を合わせて情報共有が出来るようになり、これまで以上に連携を深めて支援することができるようになった

2. ケアマネジメントの質の向上

- ・ 急なサービス調整や短期間の支援であっても、「その人らしさ」を守るために、丁寧なアセスメントを心掛けて、揺れ動く思いに寄り添い柔軟に対応できるように研修等で知識や傾聴する技術を身につけて支援に努めた
- ・ ターミナル期のケースの場合短期間で密度の濃いかかわりになることが多いため、ケアマネ自身も過度の負担にならないように日頃から事業所全体で話あえる体制を作り、支援に努めている

3. コロナ禍における継続したサービスの提供

- ・ 感染症により、ショートステイの利用が中断されることが度々発生したが、リスクも説明しながら本人・家族の意向を確認したうえで、慎重に対応しサービス事業所の変更や代替えサービス、レスパイト入院等を調整して、なるべく生活に支障が無いように安全で安心して過ごせるように支援に努めた

< 居宅サービス計画実績 >

		()は R4 年度
・計画件数	1546 件	(1608 件)
・月平均	128.8 件	(134 件)
・ケアマネ担当平均件数	26.2 件	(27.3 件)

< 介護予防支援計画実績(美祢東地域包括からの委託) >

		()は R4 年度
・計画件数	382 件	(375 件)
・月平均	31.8 件	(31 件)
・ケアマネ担当平均件数	6.4 件	(7.4 件)

< 介護報酬 >

			()は R4 年度
*特定事業所加算 (Ⅱ)(全員)	400 単位	1546 件	(1608 件)
*初回加算	300 単位	32 件	(23 件)
*入院時加算 (Ⅰ)	200 単位	28 件	(29 件)
	(Ⅱ)	100 単位	5 件 (4 件)
退院時 (情報収集 1 回)	450 単位 ・600 単位	18 件	(7 件)
	(情報収集 2 回)	600 単位* ・750 単位	3 件 (0 件)
	(情報収集 3 回)	900 単位	0 件 (0 件)

< 契約件数 >

		()は R4 年度
・新規	30 件	(27 件)
・終了	45 件	(34 件)

*終了の理由は、施設入所が半数以上を占める。他の理由として、
他界、長期入院、予防支援への移行がある

青景園デイサービスセンター

令和5年度 事業報告

1. 個別ケアの充実

- ・ 小規模デイの特性を生かして一人ひとりにしっかりと関わる時間を持ち、利用者の思いを知り、一日を穏やかに過ごしていただくことで「楽しかった。また利用したい。」と思っただけのよう職員が意識して関わった
- ・ 利用者それぞれの好みや能力に合わせた脳トレや作業療法の内容を充実させて楽しく行えるよう工夫した。しかし、男性利用者や意思疎通が難しい利用者に対してのアプローチ・工夫が今後の課題である
- ・ 職員間で情報を共有し、統一したケアができるよう努めた
- ・ 認知症の方への対応として「ゆとりを持って笑顔で関わる」ことを職員各人が意識し、状況に応じて一対一で関わり、集団の中でも孤立しないように細やかな配慮をしながら和やかな雰囲気の中で安心して利用できるよう努めた

2. 機能訓練について

- ・ マスク着用のリハビリ実施の中でも楽しんで頂けるように外庭散歩や外でのレクリエーション等、屋外での活動を増やし、前年度同様野菜作りが楽しみの一つとなるよう取り組んだ。外出支援では以前に来た場所でもその際の思い出を語り合ったり、初めて来たことへの喜びに話が弾み、屋内とは違う表情が見られた
- ・ 体力測定3回実施。体重の増減や体力の変化などがあった利用者には、ケアマネや家族に伝え、早めの対応につなげた。自宅で転倒される利用者やデイ利用中での転倒者も数名おられ、今後も下肢筋力アップメニューを積極的に取り入れて転倒予防に努めていく
- ・ 季節に合った作品づくりを通して他者との交流をしながら活性化を図る。各々出来ることを提供し、地域のふれあい祭りにも出展し、達成感につなげることが出来た

3. 職員の資質向上

- ・ 職員の研修システムわかくさに目標を掲げ、各自が今何をすべきか考えながらそれぞれの行動に自覚と責任を持って取り組んだ。また職員同士、些細なことでもコミュニケーションを取り、助言し合える雰囲気づくりに努めた

4. コロナウイルス感染症対策について

- ・ 4月3日から23日まで園内のクラスター発生によりデイサービスも休業した。厚生省が新型コロナウイルスの感染法上の分類を5月8日から季節性インフルエンザと同じ「5類」に引き下げたため、それに準じた対応へ変更したが、送迎時の健康チェック・マス

ク着用・手指のアルコール消毒は継続して取り組んだ。利用者、家族、事業所にとっても安全な利用に繋げ、サービスの提供も滞らなかった

- ・ 再開したおやつ作りでは皆で作る楽しさや喜びに湧き、美味しく頂いた。園芸活動も継続して実施し、季節を感じながら育てることや収穫を喜び、昼食時などに味わうことが出来た

5. その他

- ・ 他事業所との連携を図り、情報収集や早めの準備をして、円滑なサービス提供を行うよう努めた

<介護報酬に関する資料>

- ・ 4月に本部のコロナクラスター発症により、3週間休業した。また7月には大雨で1日休業。これらの影響も減収の要因となった
- ・ 利用者の実人数・利用回数は増加しつつあったが、入院、入所、体調不良によりサービス利用が中止となる方もいた

表1. 総合事業(事業対象者・要介護12)の報酬(月次レセプト請求額の集計値)の状況

		R3年度	R4年度	R5年度
延べ人数		277	405	347
報酬	基本報酬の部分	2,026,240	1,923,700	1,743,040
	加算の部分	102,460	128,730	141,050
	処遇改善加算の部分	149,700	145,060	131,750
	合計	2,278,400	2,197,490	2,015,840

表2. 介護保険報酬(月次レセプト請求額の集計値)の状況

		R3年度	R4年度	R5年度
延べ人数		2,075	2,100	1,823
報酬	基本報酬部分 等	17,340,040	17,342,750	15,917,180
	加算部分	971,460	1,085,960	987,460
	処遇改善費	1,293,810	1,400,130	1,385,450
	合計	19,605,310	19,828,840	18,290,090

表3. 表1、表2の合計

		R3年度	R4年度	R5年度
延べ人数		2,352	2,505	2,170
報酬	基本報酬部分 等	19,366,280	19,266,450	17,660,220
	加算部分	1,073,920	1,214,690	1,128,510
	処遇改善費	1,443,510	1,545,190	1,517,200
	合計	21,883,710	22,026,330	20,305,930

表4 総合事業・予防の区分別提供実績

区分		R3 年度	R4 年度	R5 年度
通所型独自サービス1	[回数]		5	4
	[金額]		83,600	66,880
通所型独自サービス1・日割	[回数]			
	[金額]			
通所型独自サービス1・回数	[回数]	74	117	112
	[金額]	284,160	449,280	430,080
通所型独自サービス2	[回数]	31	9	11
	[金額]	1,062,680	308,520	377,080
通所型独自サービス2・日割	[回数]			
	[金額]			
通所型独自サービス2・回数	[回数]	172	274	220
	[金額]	679,400	1,082,300	869,000
合 計	[回数]	277	405	347
	[金額]	2,026,240	1,923,700	1,743,040

表 5. 介護保険の時間区分別基本報酬提供実績

時間区分		R3 年度	R4 年度	R5 年度
(3～4時間)	[回数]	3	1	3
	[金額]	14,290	4,150	14,510
(4～5時間)	[回数]	10	16	1
	[金額]	45,420	81,830	5,640
(5～6時間)	[回数]	19	66	27
	[金額]	131,590	437,040	189,910
(6～7時間)	[回数]	730	870	538
	[金額]	5,654,520	6,985,360	4,417,730
(7～8時間)	[回数]	1,311	1,141	1,252
	[金額]	11,475,780	9,786,150	11,273,790
(8～9時間)	[回数]	2	6	2
	[金額]	18,440	48,220	15,600
合 計	[回数]	2,075	2,100	1,823
	[金額]	17,340,040	17,342,750	15,917,180

表6. 青景園デイサービスセンター事業実績表

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

[単位:人]

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介 護 保 険 事 業	R5	述べ人数	32	155	157	139	148	169	178	189	163	156	169	166	1821
		男 性	2	6	6	7	6	8	8	8	8	7	7	7	80
		女 性	12	15	17	16	15	18	18	19	18	20	18	19	205
		合 計	14	21	23	23	21	26	26	27	26	27	25	26	285
		開所日数	7	28	27	25	29	27	28	28	28	26	27	28	308
	一日平均	4.6	5.5	5.8	5.6	5.1	6.3	6.4	6.8	5.8	6.0	6.3	5.9	5.9	
	R4	述べ人数	202	197	178	187	182	188	173	181	171	147	141	154	2101
		一日平均	7.2	7.0	6.4	6.9	6.5	7.2	6.2	6.5	6.6	5.9	5.4	5.3	6.4
		増 減	△170	△42	△21	△48	△34	△19	+5	+8	△8	+9	+28	+12	△280
	総 合 事 業	R5	述べ人数	9	39	35	39	34	34	44	50	45	38	44	44
男 性			0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	1	1	6
女 性			6	7	7	7	6	7	8	7	7	7	7	7	83
合 計			6	7	7	7	6	7	9	8	8	8	8	8	89
開所日数			7	28	27	25	29	27	28	28	28	26	27	28	308
一日平均		1.3	1.4	1.3	1.6	1.2	1.3	1.6	1.8	1.6	1.5	1.6	1.6	1.5	
R4		述べ人数	44	44	56	56	43	36	45	37	35	31	35	39	501
		一日平均	1.6	1.6	2.0	2.0	1.5	1.4	1.6	1.3	1.3	1.2	1.3	1.3	1.5
		増 減	△35	△5	△21	△17	△9	△2	△1	+13	+10	+7	+9	+5	△46
合 計		R5	述べ人数	41	194	192	178	182	203	222	239	208	194	213	210
	一日平均		5.6	7.0	8.4	7.1	6.3	7.5	7.9	8.5	7.4	7.5	7.9	7.5	7.4
	R4	述べ人数	246	241	234	243	225	224	218	218	206	178	176	193	2602
		一日平均	8.8	8.6	8.4	9.0	8.0	8.6	7.8	7.8	7.9	7.1	6.8	6.7	8.0
	増 減		△205	△47	△42	△65	△43	△21	+4	+21	+2	+16	+37	+17	△326

表7. 介護保険利用者の介護度別一覧

(令和6年3月31日現在)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	介護 5	合 計
男 性	0	1	2	3	1	0
女 性	0	7	6	4	1	1
計	0	8	8	7	2	1

表8. 総合事業利用者の状況

(令和6年3月31日現在)

	要支援 1	要支援 2	事 業 対 象 者		合 計
			週1回利用	週2回利用	
男 性	0	0	0	1	1
女 性	1	2	1	3	7
計	1	2	1	4	8

表9. 実人数

	介護給付	総合事業	合 計
R6.3	26	8	34
R5.3	22	6	28

秋吉デイサービスセンター

令和5年度 事業報告

地域に密着し開かれた施設として、利用者の方々が住み慣れた町で家庭的な雰囲気の中で《安心、安全、温かさ》のあるデイサービスであるよう努める。利用者の方々の支援と社会的孤立感の解消及び機能の維持、ご家族の負担の軽減を図る。定員30名ですが、年々御利用者が減少傾向になり増加に繋げるように努力してきましたが、ショートステイの利用が増えてきたことや長期入院があり、施設入所されたことも予定していた曜日の減少となり、増加には繋がらなかった。

総合事業は横ばい状態になっているが利用については殆ど毎回利用されていて利用日の安定につながっている。安心して在宅生活が送れるように支援してきた。施設内での設備の修理や車の故障等で経費が増えているので、利用者の増加に繋げる努力をする必要を痛感している。

・・・ 重点項目 ・・・

1. 利用者の個別ケア

- ・ 日常生活上の食事、排泄、入浴等、残存機能を活用しながら、個別に介護や支援に努めていき、職員の意識統一を図り、統一したケアに努め医療行為のある方についても出来る限り受け入れ在宅生活を可能にしてきたことで、ご利用者やご家族から喜ばれ連絡帳にお礼の言葉を書かれた方もあった
- ・ アンケート調査により一人一人の思いをくみ取り、それぞれの思いに添えるように配慮してきた
- ・ アクティビティ(計画に基づいた集団的に行われるレクリエーション、創作、活動などの機能訓練)をすることで楽しみながら心身の活性化を促してきた。トランプゲームや漢字パズル趣味活動などで会話も弾み友達関係も出来るので新規利用者の方々にも楽しんで頂けるように配慮してきた
- ・ 機能訓練(リハビリ)では看護師体制が整ってきているので、各家庭を訪問し、家庭の環境、家族の要望を聞き取り多職種で個別計画を作成する。機能訓練を行う事で機能の強化、下肢筋力の低下予防、転倒予防を図る。歯磨きはまだ難しい状況ですが食前の口腔体操を続けていくことで、嚥下機能の向上に繋がり誤嚥性肺炎の予防にもなっている

2. 感染症予防新型コロナウイルス、インフルエンザ、ノロウイルス等の感染症)

- ・ 新型コロナウイルス感染症は、5 類に移行したが、気を緩めず、予防対策、発症時の

対応など、マニュアルに沿って職員の意識統一を図り感染症の予防を図ってきた

- ・ アルコール消毒、手洗いの徹底、超音波噴霧の使用、室温、温度等配慮してきた。ご利用者やご家族に協力して頂いたお陰で今年度は感染者が出なかったのが安心してご利用していただけた

3. 職員の資質向上

- ・ 各種研修会がリモートになっているため以前に比べ研修会への参加が減少している
ので、わかくさに目標を掲げ、自己の向上に努めてきた
- ・ 職員全体で明るい職場作り、働きやすい環境作りに取り組み、チームワークを大切に
してきたが、時には意見の衝突などもあり話し合うことで問題を解決してきた
- ・ ラジオ体操の励行

4. 事故防止

- ・ 送迎、介護、支援においてヒヤリ・ハットを記録して、事例検討することで、事故防止に
努めてきたが、車両事故が起きたことで道路上の危険個所、ご家庭の危険物の把握
などの情報を共有することで、今後は事故を起こさないようにと気を引き締めて運転す
ることが出来た

5. 地域、関係機関との連携

- ・ 関係機関と連携を図り、利用者の情報を共有し安定した在宅生活を送れるよう配慮し
特徴のある選ばれるデイサービスになるよう努めてきた
- ・ 保育園、小学校、ボランティアとの交流は難しく出来なかった事は残念であった

<介護報酬に関する資料>

総合事業については5年度には人数、基本報酬が増加している。利用日に休む方が少なく報酬の増加につながっている。介護保険事業では利用者の減少と豪雨や雪などによる休業、利用者の長期入院、施設入所などにより介護報酬の減額となっている。

時間区分については6時間～7時間利用(3時40分帰り)が多く7～8時間利用(4時40分帰り)の方が増えると増収に繋がると思う。

表1. 総合事業(事業対象者・要介護12)の報酬(月次レセプト請求額の集計値)の状況

		R3 年度	R4 年度	R5 年度
延べ人数		1,628	1,345	1,629
報 酬	基本報酬部分	8,349,500	6,838,140	8,336,430
	加算部分	158,360	127,680	143,760
	処遇改善費	586,680	510,970	678,160
	合計	9,094,540	7,476,790	9,158,350

表2. 介護保険報酬(月次レセプト請求額の集計値)の状況

		R3 年度	R4 年度	R5 年度
延べ人数		5,988	5,996	5,386
報 酬	基本報酬部分 等	42,526,430	42,319,700	37,305,330
	加算部分	4,066,160	4,245,870	3,722,330
	処遇改善費	3,213,220	3,449,730	3,261,470
	合計	49,805,810	50,015,300	44,289,130

表3. 表1、表2の合計

		R3 年度	R4 年度	R5 年度
延べ人数		7,616	7,341	7,015
報 酬	基本報酬部分 等	50,875,930	49,157,840	45,641,760
	加算部分	4,224,520	4,373,550	3,866,090
	処遇改善費	3,799,900	3,960,700	3,939,630
	合計	58,900,350	57,492,090	53,447,480

表 4. 総合事業・予防の区分別提供実績

区分		R3 年度	R4 年度	R5 年度
通所型独自サービス1	〔回数〕	30	41	34
	〔金額〕	501,600	685,520	568,480
通所型独自サービス1・日割	〔回数〕			
	〔金額〕			
通所型独自サービス1・回数	〔回数〕	511	486	553
	〔金額〕	1,962,240	1,866,240	2,123,520
通所型独自サービス2	〔回数〕	55	40	53
	〔金額〕	1,885,400	1,371,200	1,816,840
通所型独自サービス2・日割	〔回数〕	27	56	28
	〔金額〕	30,510	63,280	31,640
通所型独自サービス2・回数	〔回数〕	1,005	722	961
	〔金額〕	3,969,750	2,851,900	3,795,950
合 計	〔回数〕	1,005	722	961
	〔金額〕	8,349,500	6,838,140	8,336,430

表 5. 介護保険の時間区分別基本報酬提供実績

時間区分		R3 年度	R4 年度	R5 年度
(3～4時間)	〔回数〕	5	13	37
	〔金額〕	24,290	56,010	136,680
(4～5時間)	〔回数〕	85	65	7
	〔金額〕	420,360	317,580	27,580
(5～6時間)	〔回数〕	40	29	24
	〔金額〕	277,270	210,780	164,920
(6～7時間)	〔回数〕	3,665	3,853	3,716
	〔金額〕	24,312,540	25,780,400	24,234,180
(7～8時間)	〔回数〕	2,188	2,011	1,597
	〔金額〕	17,447,660	15,755,550	12,703,800
(8～9時間)	〔回数〕	5	25	5
	〔金額〕	44,310	199,380	38,170
合 計	〔回数〕	5,988	5,996	5,386
	〔金額〕	42,526,430	42,319,700	37,305,330

表6. 秋吉デイサービスセンター事業実績表

(令和5年4月1日～令和6年3月31日)

{単位:人}

		4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計	
介護 保険 事業	R5	述べ人数	476	490	441	401	463	464	453	437	444	415	452	473	5,409
		男性	19	20	18	19	20	17	17	16	16	12	13	14	201
		女性	39	34	34	30	35	33	31	30	37	33	33	32	401
		合計	57	54	52	49	55	50	48	46	53	45	46	46	601
		開所日数	26	26	26	26	27	26	26	26	26	24	25	26	310
	一日平均	19.0	18.1	17.0	16.5	17.1	17.8	17.4	16.8	17.0	17.3	18.1	18.2	17.5	
	R4	述べ人数	543	528	540	513	550	502	558	538	481	409	342	521	6,025
		一日平均	21.0	20.0	21.0	20.0	20.0	19.0	21.5	20.7	18.5	17.8	18.0	19.3	19.7
		増減	△67	△38	△99	△112	△87	△38	△105	△101	△37	+6	+110	△48	△616
	総合 事業	R5	述べ人数	174	208	215	194	197	197	190	164	155	159	180	190
男性			5	3	5	4	4	4	4	3	3	4	4	3	46
女性			29	33	32	32	30	30	29	29	28	26	25	27	350
合計			34	36	37	36	34	34	33	32	31	30	29	30	396
開所日数			26	26	26	27	26	26	26	26	26	24	25	26	310
一日平均		6.7	8.0	8.3	7.2	7.6	7.6	7.3	6.3	6.0	6.6	7.2	7.3	7.2	
R4		述べ人数	174	181	167	157	149	146	168	157	153	131	112	163	1,858
		一日平均	8.0	8.0	8.0	7.0	6.0	7.0	9.0	9.0	8.0	9.0	9.0	9.0	8.1
		増減	+0	+27	+48	+37	+48	+51	+22	+7	+2	+28	+68	+27	+365
合計		R5	述べ人数	650	698	656	595	660	661	643	601	599	574	632	663
	一日平均		25.2	26.8	25.2	22.9	24.4	25.4	24.7	23.1	23.0	23.9	25.3	25.5	24.6
	R4	述べ人数	717	709	707	670	699	648	726	695	634	540	454	684	7,883
		一日平均	27.6	27.3	27.2	25.8	25.9	25.0	28.0	26.7	24.4	23.5	24.0	25.3	26.6
	増減		△67	△11	△51	△75	△39	+13	△83	△94	△35	+34	+178	△21	△251

表7. 介護保険利用者の介護度別一覧

(令和6年3月31日現在)

	要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	介護 5	合 計
男 性	7	4	1	1	0	15
女 性	17	12	2	1	1	32
計	24	16	3	2	1	46

表8. 総合事業利用者の状況

(令和6年3月31日現在)

	要支援 I	要支援 2	事 業 対 象 者		合 計
			週1回利用	週2回利用	
男 性	0	1	1	2	4
女 性	6	10	5	5	26
計	6	11	6	7	30

表9. 秋吉デイサービスセンター事業実績表

行 事		個 別 活 動			
		健康・運動	創作・手工芸	手作りおやつ	園芸
4月	お花見、花祭り 誕生会	外庭散歩、療育 音楽、頭脳レク			花の手入れ
5月	カラオケ、母の日 藤の花見、誕生会	ミニ運動会 リズム体操	作品作り こいのぼり	いぎの葉団子	花植え
6月	父の日、大祓い 誕生会	雨降りゲーム 頭脳レク	七夕飾り		
7月	涼を求めて、七夕行事、氷とか し、スイカ割、誕生会	弁天池散策 頭脳レク		かきもち茶	
8月	地藏祭(福引き) 盆踊り大会、誕生会	体を使ったゲーム 頭脳レク			花の手入れ
9月	敬老会行事 誕生会	ミニ運動会 リズム体操			花植え
10月	運動会、デイサービス祭り 誕生会	外庭散歩、頭脳レク 体を使ったゲーム	ふれあい祭 作品作り、自由作品	どら焼き	
11月	紅葉狩り、カラオケ 秋芳町ふれあい祭り、誕生会	療育音楽、頭脳 レク、ゲーム大会	クリスマス作品	スイートポテト	花の手入れ
12月	クリスマス会、大祓い 忘年会、映画鑑賞、誕生会	ゲーム大会 反省会	正月用作品作り 打ち出の小槌		
1月	初詣、正月遊び、お茶会 福引大会、誕生会	すごろくゲーム 町内神社参拝			
2月	カラオケ 節分行事、誕生会	療育音楽 鬼払いゲーム			
3月	焼山見物 ひな祭り行事、誕生会	体を使ったゲーム	壁面製作 お雛様	よもぎ団子	

☆ADL体操・口腔体操・失禁体操・転倒予防体操……毎日

☆なつかしの歌……毎月2曲を選び毎日歌う

☆機能訓練……個別に計画を作成し、個別メニューを実施

☆集団レクリエーション……プログラムを作成し実施

☆趣味・生きがい……個別に関わる。貼り絵・ぬり絵・脳のトレーニング・タオル干し

将棋・手芸・買い物

特別養護老人ホーム青景園
短期入所生活介護（ショートステイ）

令和5年度 事業報告

- ・今年度は、個別ケアの充実とロングショートや緊急時のスムーズな受け入れ、感染症予防の3つに焦点を絞って取り組んだ。利用人数や介護報酬は前年と比べて増加しているが、実人数は減少しているため新規利用者が少なく、毎月定期的な利用を希望される利用者が多いことがわかる。
- ・4月と1月に施設内でコロナウイルス感染があり、利用日数や人数の減少が見られたが、通常は可能な限り空床を活用し受け入れを行った。施設内でコロナウイルス感染があると、利用者や家族に迷惑をかけてしまうと同時に、実績にも大きな影響が出るため、今後も感染症の予防に努め、施設の資源を活用し、一人でも多くの利用者に喜ばれるサービスを提供できるよう取り組んでいきたい。

<利用実績報告(令和5年4月～令和6年3月)>

表1 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	36	56	42	54	48	38	43	49	65	42	81	73	627
女	86	275	271	328	298	242	240	211	230	161	183	204	2,729
計	122	331	313	382	346	280	283	260	295	203	264	277	3,356

表2 実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	4	4	6	7	6	4	6	7	6	7	9	7
女	15	22	23	25	25	19	20	21	18	15	18	19
計	19	26	29	32	31	23	26	28	24	22	27	26

年間:45

表3 実人数内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	1	1	1	1	1	1	1	0	0	0	0
要支援2	0	0	0	1	0	0	0	0	0	0	0	2
要介護1	3	4	7	4	4	2	3	5	2	2	3	2
要介護2	3	5	8	11	13	9	9	10	9	7	9	8
要介護3	7	10	8	9	8	7	8	8	8	10	9	9
要介護4	6	6	4	5	4	3	3	2	4	2	4	3
要介護5	0	0	0	0	0	0	1	1	0	0	1	1
短期宿泊	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
障害	0	0	1	1	1	1	1	1	1	1	1	1

表4 1人の平均利用日数 及び 1日の平均利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用日数	6.4	12.7	10.8	11.9	11.2	12.2	10.8	9.3	12.3	9.2	9.8	11.0
利用人数	4.1	10.7	10.4	12.3	11.2	9.3	9.1	8.7	9.5	6.2	9.1	8.9

年間平均 9.15

<介護報酬(月次レセプト請求額の集計)の状況>

表5 利用人数と報酬

		R3年度	R4年度	R5年度
総合事業	利用人数	117	129	69
	報酬	772,900	867,940	468,870
介護事業	利用人数	2,900	3,126	3,199
	報酬	26,012,570	27,665,480	29,300,150
合計	利用人数	3,017	3,255	3,268
	報酬	26,785,470	28,533,420	29,769,020

特別養護老人ホーム 青景園サテライト 秋芳の里
短期入所生活介護（ショートステイ）

令和5年度 事業報告

1. 利用状況について

- ・ 定期に利用される方が、徐々に減少している。その理由として、他界、長期入院、施設入居がある。その反面、新規利用者も増加し、実人数としては増加傾向であった。しかし、新規利用の方が、緊急での対応や他施設の感染症により臨時で利用するなど定着には至らなかったケースが多かった。
- ・ 7月～9月に施設内での感染症があったが、昨年度に比べ目立った利用者減少はみられなかった。

2. 感染予防について

- ・ 感染予防として、事前の体調確認や来園時の体調確認を徹底した。利用時に、体調の変化に気づき医療機関へ引継ぎコロナ感染が分かったケースもあった。
- ・ 初期対応が出来他の利用者への感染を防ぐ事もできた。活動においても、状況が変わっても利用を継続できるように関わった。

3. 介護報酬について

- ・ 予防の方の利用が減少し、要介護の利用者が増加し、全体の報酬が増加傾向になった。
- ・ 全体的に利用者が年々減少傾向にあり、空室も多くなった。ユニット型個室という事もあって、利用料等もあり急な利用は困難な状況もうかがえた。

<利用実績報告(令和5年4月～令和6年3月)>

表1 延べ人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
男	37	18	16	28	31	55	49	36	68	29	34	31	432
女	217	212	210	160	188	131	181	200	200	192	182	138	2,211
計	254	230	226	188	219	186	230	236	268	221	216	169	2,643

表2 実人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
男	5	3	4	4	6	7	7	5	6	5	5	7
女	22	23	26	20	24	18	18	21	22	27	24	21
計	27	26	30	24	30	25	25	26	28	32	29	28

年間:74

表3 実人数内訳

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
要支援1	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	1	1	1	0	0	1	1	1	0	0	1	1
要介護1	4	4	7	4	7	4	4	6	9	14	8	8
要介護2	10	10	10	10	11	8	11	11	10	11	9	9
要介護3	10	8	7	4	5	4	4	4	5	3	4	3
要介護4	2	3	2	3	3	3	2	2	2	2	4	5
要介護5	0	0	1	1	1	2	1	2	2	2	2	2
短期宿泊	0	0	2	2	3	3	1	0	0	0	0	0

表4 1人の平均利用日数 及び 1日の平均利用人数

	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
利用日数	9.4	8.8	7.5	7.8	7.3	7.4	9.1	9.1	9.6	6.9	7.4	6.0
利用人数	8.5	7.4	7.5	6.1	7.1	6.2	7.6	7.9	8.6	7.1	7.4	5.5

年間平均 7.2

<介護報酬(月次レセプト請求額の集計)の状況>

表 5 利用人数と報酬

		R3 年度	R4 年度	R5 年度
総合事業	利用人数	231	81	24
	報酬	1,862,790	670,420	213,420
介護事業	利用人数	2,716	2,146	2,432
	報酬	26,937,620	21,635,440	24,868,990
合計	利用人数	2,947	2,227	2,456
	報酬	28,800,410	22,305,860	25,082,410